

熊本空襲 未来に伝えよう

太平洋戦争について総合的に学べる資料館の県内設立を目指す準備会の発足会が13日、熊本市中央区の県民交流館パレアであり、熊本空襲の調査記録を未来に伝えることなどを柱にした設立骨子案を確認した。

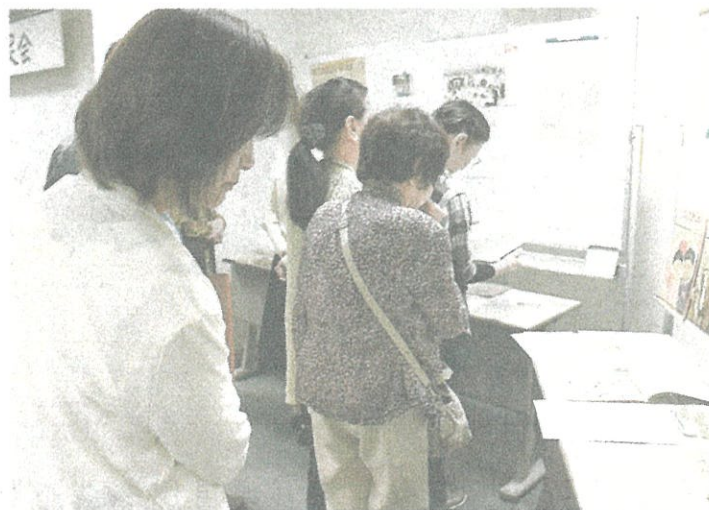
戦争学べる資料館 準備会が発足の会

設立準備事務局会が発足会を開き、約100人が参加した。ほかの設立骨子の柱は軍都熊本について学ぶことと、次世代が学び、体験したことを人に伝えること。機運を盛り上げるため、ことし7月と8月に県内の戦争遺跡を巡るバスツアーを実施し、8月に熊本市立図書館で熊本空襲の企画展を開く計画も示された。

今後は市民や企業からの寄付を募るほか、自治体にも支援を求める。同事務局会の小山和作代表(85)は発足会で「きょうがスタート。最後まで協力してほしい」と呼び掛けた。

参加した同市東区の元塾講師、鶴山幸子さん(71)は「戦争の悲惨さを伝える施設が早くできるよう応援したい」と話していた。

(熊川果穂)



資料館設立を目指す準備会の発足会が開かれた会場で展示された戦時資料を見学する参加者＝13日、熊本市中央区